

1 市章・市の木・市の花

○市 章



新旭市の将来都市像「ひとが輝き海とみどりがつくる健康都市“旭”」をイメージし、旭(asahi)の頭文字「a」をモチーフに、青色は海を、緑色は豊かな自然を、そして全体のシルエットは、それらの自然と大地の恵みの中で、健康で元気はつらつと躍動する旭市民と、未来へと飛躍する活力ある旭市の姿を表しています。

〔平成17年10月29日制定〕

○市の花／ツバキ



大穀倉地帯である干潟八万石は、かつて「樺の海」と呼ばれ、その「ツバキ」の名は馴染み深いものがあります。そのツバキにちなみ、制定されています。濃い緑の中に咲く花は映え、広く親しまれています。

〔平成17年10月29日制定〕

○市の木／クロマツ



白砂青松と謳われる九十九里浜を代表する木。広く市内に生育し、潮風から守ってくれるなど、力強く頼りがいのある木です。

〔平成17年10月29日制定〕

○旭の由来

— 信濃よりいづる旭をしたい来て 東のくにに 跡とどめけむ —

この歌は、木曾家の末裔である国学者 野々口隆正が、1852年に現在の旭市にある木曾義昌（源平の戦いで朝日将軍と称された木曾義仲の19代子孫）の旧跡を訪れた際、この悲運の武将をしたい偲び詠まれたものといわれ、これを由来に明治22年に旭という地名が誕生しました。

1 市史

2 旧市町の廃置分合、境界変更及び名称変更

(旧旭市)

明治22年	4月	1日	合	併	網戸村、成田村、十日市場村、太田村(旭町となる)
昭和29年	2月	11日	合	併	旭町、矢指村、富浦村(旭町となる)
昭和29年	6月	1日	合	併	共和村、豊畑村を旭町に編入
昭和29年	7月	1日	境界変更		海上町琴田の一部を編入 市制施行
昭和30年	2月	11日	境界変更		イの一部を銚子市へ
昭和30年	12月	1日	境界変更		海上町琴田の一部を編入
昭和35年	9月	1日	境界変更		海上町江ヶ崎、琴田の一部を編入
昭和59年	5月	1日	境界変更		イの一部を海上町へ
平成 6年	4月	1日	境界変更		干潟町萬歳の一部を編入 旭市琴田の一部を干潟町へ
平成11年	2月	1日	境界変更		旭市琴田の一部を海上町へ編入 海上町琴田の一部を旭市へ編入
平成12年	4月	1日	境界変更		旭市川口の一部を八日市場市へ 八日市場市川向の一部を旭市へ編入

(旧海上町)

明治22年	4月	1日	合	併	清滝村、岩井村、松ヶ谷村、幾世村(滝郷村となる) 見広、大間手村、蛇園村、倉橋村(鶴巻村となる) 後草村、琴田村、高生村、江ヶ崎村(嚶鳴村となる)
昭和29年	3月	31日	合	併	鶴巻村、滝郷村、嚶鳴村(海上町になる)
昭和29年	7月	1日	境界変更		一部の地域が海上郡旭町へ
昭和30年	12月	1日	境界変更		一部の地域が旭市へ
昭和32年	8月	1日	境界変更		海上郡飯岡町の一部を編入
昭和35年	9月	1日	境界変更		一部の地域が旭市へ
昭和59年	5月	1日	境界変更		旭市の一部を編入

(旧飯岡町)

明治22年	4月	1日	合	併	飯岡村、上永井村、下永井村、行内村、平松村 横根村、萩園村、岩崎村(飯岡町となる)
昭和29年	3月	31日	合	併	飯岡町、三川村(飯岡町となる)
昭和32年	4月	1日	境界変更		銚子市の一部を編入
昭和32年	8月	1日	境界変更		一部の地域が海上町へ
昭和33年	8月	1日	境界変更		一部の地域が銚子市へ

(旧干潟町)

明治22年	4月	1日	合	併	萬歳村、関戸村、溝原村(萬歳村となる) 清和村、南堀之内村、米込村、長部村(荘内村となる) 鎚木村、萬力村、秋田村(古城村となる)
昭和30年	4月	10日	合	併	古城村、中和村、萬歳村(干潟町となる)
昭和31年	4月	15日	境界変更		東庄町の一部を編入
昭和36年	9月	1日	境界変更		東庄町の一部を編入

(旭市)

平成17年	7月	1日	合	併	旭市、海上町、飯岡町、干潟町(旭市となる)
-------	----	----	---	---	-----------------------